

避難先の選定における留意点

【避難先選定フロー】



ハザードマップで施設の危険性を確認しましょう

1 施設が下記の区域に該当する

はい いいえ

家屋倒壊等氾濫想定区域

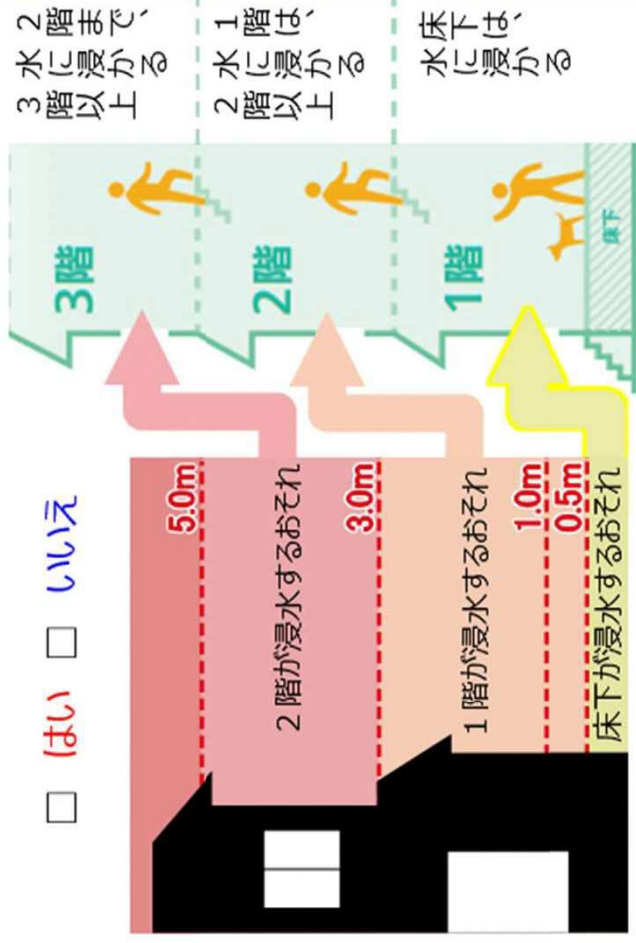
土砂災害警戒区域
土砂災害特別警戒区域

津波による
浸水のおそれがある区域

はい

2 施設の浸水深より高い所に避難スペースがある

はい いいえ



いいえ (高い所にスペースがない)

3

浸水継続時間

避難スペースにて
電気や通信、
水道、トイレ等が
使用可能である

はい

いいえ

はい

いいえ

施設外の避難先に
立退き避難

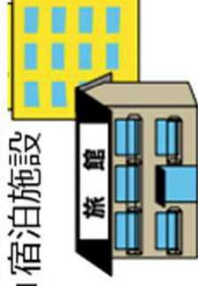
- 系列の施設や
同種・類似の施設



- 市町村が指定する
指定(福祉)避難所、
指定緊急避難場所



- 近隣の安全な場所
- 宿泊施設



施設内の高い所に
屋内安全確保

理解度チェック（問題）

次の内容は「○」か「×」かどちらでしょうか。
「×」の場合、正解を考えてください。

- ① ハザードマップにおいて、浸水深3.0～5.0m未満と示されている場合は、2階の居室に移動すれば安全を確保できる。
- ② ハザードマップにおいて、家屋倒壊等氾濫想定区域や土砂災害警戒区域と示されている場合は、立退き避難が必要である。
- ③ 避難先は、原則として市町村の指定緊急避難場所を選定すべきであり、安全な場所にあったとしても、系列の施設や他の同種類施設への避難は適切でない。

理解度チェック (回答)

次の内容は「○」か「×」どちらでしょうか。
「×」の場合、正解を考えてください。

- ① ハザードマップにおいて、浸水深3.0～5.0m未満と示されている場合は、2階の居室に移動すれば安全を確保できる。
- ② ハザードマップにおいて、家屋倒壊等氾濫想定区域や土砂災害警戒区域と示されている場合は、立退き避難が必要である。
- ③ 避難先は、原則として市町村の指定緊急避難場所を選定すべきであり、安全な場所にあったとしても、系列の施設や他の同種類施設への避難は適切でない。

間違っているのは、①と③です。
正解は以下のとおりです。

- ① ハザードマップにおいて、浸水深3.0～5.0m未満と示されている場合は、2階の居室まで浸水するため、3階以上の居室等に移動する必要がある。
- ② 【正解○】
- ③ 避難先は、安全な場所にあり、かつ利用者の支援が可能であれば、市町村の指定緊急避難場所や福祉避難所のほかに、系列の施設、他の同種・類似の施設等を選定することができる。

避難開始のタイミングの考え方

- 避難開始は、原則として、市町村から警戒レベル3高齢者等避難が発令された時です。ただし、利用者全員の避難完了までに多くの時間を要する場合は、この発令を待つことなく**早めに避難を開始することが必要**です。
- また、夜間の避難は危険を伴うことから、夜間に災害の発生が切迫するおそれがある場合には、**日没までの立退き避難を完了**するようにしましょう。
- 通所型の施設の場合は、事前休業を選択することが、**利用者の安全確保につながる**ります。事前休業の実施基準を満たした場合は、**躊躇することなく事前休業の実施を判断することが重要**です。

警戒 レベル	1	2	3	4	5
避難 情報等	早期注意情報 (警報級の可能性)	大雨注意報 洪水注意報	高齢者等避難	避難指示	緊急安全確保
施設の 行動	情報収集 	● 日没までの避難完了 ● 前日の休業判断 	避難開始 	避難完了 	

防災気象情報や避難情報の収集

- 防災気象情報や避難情報は、初動体制の確立や避難開始の判断等をするために必要なものです。
- 収集する情報の内容や入手方法、伝達する情報の内容と伝達先をあらかじめ決めて確認しておきましょう。

種類	名称	入手手段と伝達イメージ
台風等の情報	<ul style="list-style-type: none"> ■ 週間天気予報、天気予報 ■ 台風情報 ■ 早期注意情報 	<p>□ テレビのデータ放送 □ ラジオ</p>  <p>災害級の大雨が予想されています。今後の情報に注意してください。 気象庁緊急伝言「早めの避難を」</p> <p>台風進路や大雨の予想情報を確認 情報伝達</p>  <p>台風の大雨により施設が浸水するかもしれません</p>
雨の情報	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大雨注意報、洪水注意報 ■ 大雨警報、洪水警報 ■ 土砂災害警報情報 ■ 大雨特別警報 ■ 降水短時間雨量予測 ■ キクル(危険度分布) 	<p>□ インターネット</p>  <p>川の水位がキケンです</p> <p>大雨や川の水位の最新情報を確認 報告</p>  <p>避難をするので手伝ってください</p> <p>連絡</p>  <p>連絡</p>  <p>地域の避難支援者</p>
河川の情報	<ul style="list-style-type: none"> ■ 氾濫注意情報 ■ 氾濫警戒情報 ■ 氾濫危険情報 	<p>□ 防災情報メール □ スマートフォンアプリ</p>  <p>避難情報が発令されました</p> <p>共有</p>  <p>避難情報が発令されました</p>  <p>施設関係者全員</p> <p>連絡</p>  <p>今から〇〇施設へ避難します。</p> <p>保護者</p>
避難の情報	<ul style="list-style-type: none"> ■ 警戒レベル3(高齢者等避難) ■ 警戒レベル4(避難指示) ■ 警戒レベル5(緊急安全確保) 	

理解度チェック（回答）

次の内容は「○」か「×」がどちらでしょうか。

「×」の場合、正解を考えてください。

- ① 避難開始のタイミングは、市町村が警戒レベル3（高齢者等避難）を発令した時であり、避難に多くの時間がかかる場合であつても、この発令を待たずに避難を開始することは適切ではない。
- ② 夜間に災害が発生するおそれがある場合には、日没までに立退き避難を完了するよう早めの避難行動が必要である。
- ③ 通所型の施設の場合は、事前休業を選択することが、利用者の安全確保につながるため、事前休業の実施基準を満たした場合は、躊躇することなく事前休業の実施を判断することが重要である。

理解度チェック (回答)

次の内容は「○」か「×」かどちらでしょうか。

「×」の場合、正解を考えてください。

- ① 避難開始のタイミングは、市町村が警戒レベル3（高齢者等避難）を発令した時であり、避難に多くの時間がかかる場合であつても、この発令を待たずに避難を開始することは適切ではない。
- ② 夜間に災害が発生するおそれがある場合には、日没までに立退き避難を完了するよう早めの避難行動が必要である。
- ③ 通所型の施設の場合は、事前休業を選択することが、利用者の安全確保につながるため、事前休業の実施基準を満たした場合は、躊躇することなく事前休業の実施を判断することが重要である。

間違っているのは、①です。
正解は以下のとおりです。

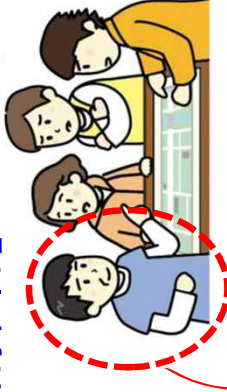
- ① 原則として市町村から警戒レベル3（高齢者等避難）の発令時であるが、避難先までの移動、全ての利用者の避難準備等に多くの時間がかかる場合は、この発令を待つこと無く、避難を開始することが重要である。
- ② 【正解○】
- ③ 【正解○】

施設における防災体制の例

- 利用者の円滑な避難を確保するためには、防災体制を機能的に組織する必要があるります。
- 職員だけで利用者の避難支援が困難な場合には、地域住民や利用者の家族、地元企業等の外部の協力も得て体制を構築しましょう。
- また、夜間や休日などに迅速に駆けつけることができる緊急参集者も決めておくことが重要です。

職員一人一人が担当する内容を把握し、いざというときに対応できるようにしましょう！

- ① 全体を指揮する
「**統括指揮者**」



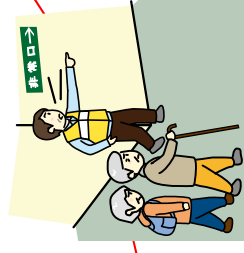
- ② 情報収集や伝達を担当する
「**情報連絡班**」



- ④ 避難に必要な設備や装備品等を
点検し準備する「**装備品等準備班**」



- ③ 利用者の避難支援を担当する
「**避難誘導班**」



統括指揮者の役割の例

【全体を統括する「統括指揮者」の役割】

- 統括指揮者の役割は、状況を把握し**全体を指揮**することです。
- 警戒レベル等に応じて、職員等の召集や**避難開始の判断**を行います。
- 通所施設においては、**事前休業の判断**も行います。

レベル	統括指揮者	対応イメージ
警戒レベル1 災害への 心構えを 高める段階	<ul style="list-style-type: none"> - 状況把握、指揮 - 体制確立の判断 - 事前休業の判断 	<p>明日、警報が発表される可能性が高い。 高齢者等避難が発令されるかもしれない。 避難の手順を確認しておこう。</p>  <p>事前休業の判断も 考えておこう！</p>
警戒レベル2 ＜注意体制＞	<ul style="list-style-type: none"> - 状況把握、指揮 - 職員等召集 - (避難開始判断) 	<p>夜中に、高齢者等避難が 発令されるかもしれない。 参集職員に声をかけておこう。</p>  <p>川の水位が キケンです</p> <p>情報連絡班 統括指揮者</p> <p>施設の体制を 整えてください。</p>
警戒レベル3 ＜警戒体制＞	<ul style="list-style-type: none"> - 状況把握、指揮 - 避難開始判断 	<p>避難場所まで 避難を開始します</p>  
警戒レベル4 ＜非常体制＞	<ul style="list-style-type: none"> - 状況把握、指揮 - 避難先での利用者支援の監督 - (緊急安全確保の判断) 	<p>利用者の状況 確認及び支援</p> 

情報連絡班の役割の例

【情報収集や伝達を担当する「情報連絡班」の役割】

○ 情報連絡班の役割は、防災気象情報や避難情報を収集し、統括指揮者や職員に情報を伝達することや、市町村等の関係機関や避難先、利用者の家族と連絡を取り合うことです。

レベル	情報連絡班	対応イメージ
警戒レベル1 災害への 心構えを 高める段階	<ul style="list-style-type: none"> 気象情報等収集 職員への情報伝達 	
警戒レベル2 ＜注意体制＞	<ul style="list-style-type: none"> 気象情報、水位情報、避難情報、避難先情報等の収集 職員や避難支援協力者へ連絡 	
警戒レベル3 ＜警戒体制＞	<ul style="list-style-type: none"> 気象情報、水位情報、避難情報等の収集 利用者家族等への連絡 市町村等への連絡 	
警戒レベル4 ＜非常体制＞	<ul style="list-style-type: none"> 市町村等への連絡 	

避難誘導班の役割の例

【利用者の避難支援を担当する「避難誘導班」の役割】

- 避難誘導班の役割は、利用者の避難誘導を行うことです。
- 避難誘導を行うにあたって、事前に誘導方法の確認や避難ルートの確認を行います。避難完了後は、利用者の点呼も行います。

レベル	避難誘導班	対応イメージ
警戒レベル1 災害への 心構えを 高める段階	<ul style="list-style-type: none"> ▪ (避難誘導体制の確認) ▪ (避難ルートの確認) 	 <p>避難先と避難経路を 確認しておこう。</p>  <p>利用者の一人一人の 避難方法を確認しておこう。</p>
警戒レベル2 ＜注意体制＞	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 避難誘導体制の確認 ▪ 避難ルートの確認 ▪ (避難誘導開始) 	

■ 避難誘導開始

■ 立退き避難



■ 屋内安全確保

- 避難完了の確認
- 避難先での利用者支援
- (緊急安全確保の誘導)

警戒レベル4
＜非常体制＞




利用者の状況
確認及び支援



装備品等準備班の役割の例

【避難に必要な設備や装備品等を点検し準備する「装備品等準備班」の役割】

- 装備品等準備班は、避難に必要な設備や装備品、備蓄品、備蓄品等への持ち出し品等を点検し準備します。
- また、避難に必要な移動用の車両手配や避難先への持ち出し品の運搬、利用者への装備品の装着等を行います。

レベル	装備品等準備班	対応イメージ
警戒レベル1 災害への 心構えを 高める段階	<ul style="list-style-type: none"> ▪ (避難に必要な設備や装備品、備蓄品、避難先への持ち出し品等を点検し準備) 	 <p>車いすなどを確保できているか</p>  <p>すぐ使えるところにあるか</p>  <p>必要な備蓄品は確保できているか</p>  <p>避難に必要な車両は確保できたか</p>
警戒レベル2 <注意体制>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 避難に必要な設備や装備品、備蓄品、避難先への持ち出し品等を点検し準備 ▪ 移動用車両の手配 	 <p>■ 服装の着替え</p>  <p>■ 移動の準備</p>  <p>■ リフト車への移動</p>
警戒レベル3 <警戒体制>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 利用者への装備品の装着 ▪ 移動用車両の確保 ▪ 避難先への持ち出し品等を運搬 	 <p>■ 利用者の支援に必要な薬や食料の確保・管理</p>
警戒レベル4 <非常体制>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 避難先での持ち出し品等の管理 	

避難訓練の種類

【立退き避難、屋内安全確保】

- 利用者を避難先に移動させる訓練としては、立退き避難訓練と屋内安全確保訓練があります。
- 立退き避難訓練は、施設外の避難先に利用者を移動させる訓練です。
- 屋内安全確保訓練は、施設の上階などに利用者を移動させる訓練です。
- 訓練は、職員のみならず、**避難支援協力者の参加も得て行う**ようにしましょう。

訓練種類

立退き避難訓練

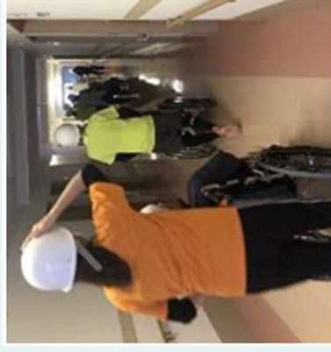
訓練イメージ

施設内移動 ⇒ 車両への移動、徒歩⇒
避難先(利用者の支援)



屋内安全確保訓練

施設上階への移動(階段・エレベーター)⇒
上階での利用者の支援



避難訓練の種類

【図上訓練・情報収集・情報伝達訓練・避難経路等の確認訓練】

- 図上訓練は、避難先までの立退き避難訓練や屋内安全確保訓練のシミュレーションを行う訓練です。情報収集・情報伝達訓練を合わせて行う場合があります。
- 情報収集・情報伝達訓練は、避難に必要な防災気象情報や避難情報を収集し、その情報を職員や避難支援協力者等に伝達する訓練です。
- 避難経路等の確認訓練は、現地を実際に見て、避難先や避難経路の安全性等について確認する訓練です。

訓練種類

図上訓練

情報収集・情報伝達訓練

避難経路等の確認訓練

訓練イメージ

- ・地図等を活用したイメージ訓練



- ・日頃からの気象情報等の確認
- ・施設内での情報伝達訓練



- ・避難先までの移動時間の確認
- ・大雨時における安全性の確認



避難訓練の種類

【設備・装備品・備蓄品・持ち出し品等の確認訓練】

○ 設備・装備品・備蓄品・持ち出し等の確認訓練は、避難に必要な設備や装備品の点検や備蓄品の在庫確認、避難先への持ち出し品の準備する訓練です。

訓練の種類

設備・装備品・備蓄品・持ち出し品等の確認訓練

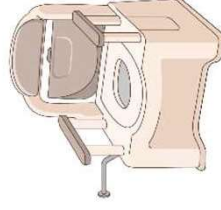
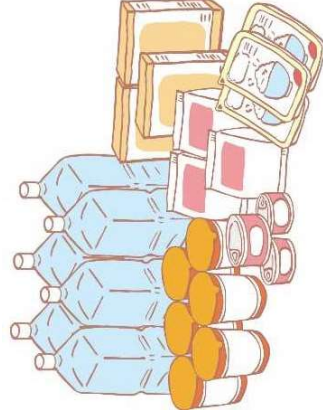
訓練イメージ

- ・ 利用者の避難に必要なものを確保
- ・ 避難先にて必要なものを確保
- ・ 移動しやすい場所にあるかの確認



【参考】屋内安全確保で避難するときの注意点

- 施設内に数日間過ごせる量の食糧や水、薬を備蓄しておきましょう。
- 停電、断水、ガスの供給停止に備え、施設内に数日間過ごすための懐中電灯、非常用電源、携帯用トイレ等を備蓄しておきましょう。



【参考】避難支援に必要な設備や機材等

○ エレベーターの活用に加え、非常用電源の設置や工
 レベーターの代替えとなるスロープの設置、階段昇降
 機の設置、車椅子等を支援者が持ち上げることも想
 定した階段幅の確保しましょう。

○ 避難及び避難先における支援に必要な装備品や備蓄品を適切に確保しておきましょう。

※ 電力を必要としないものや蓄電池により稼働するもの



※ 車椅子や担架等を支援者が持ち上げることを想定した階段幅



非常用発電機

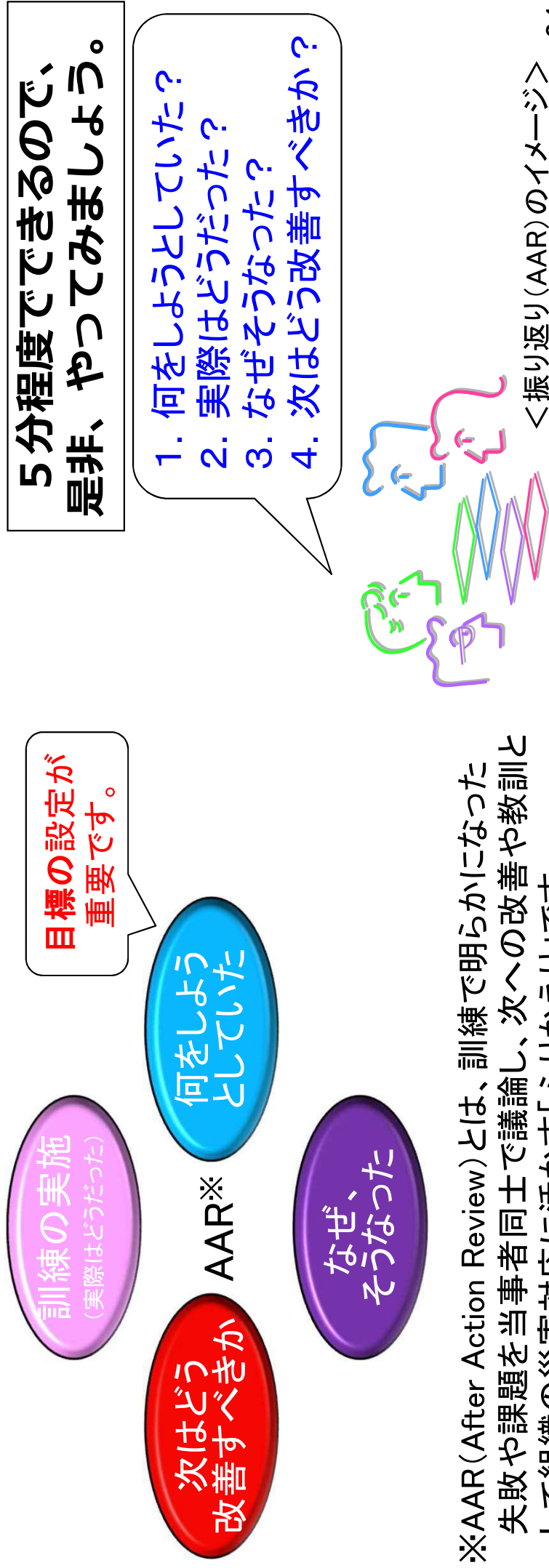


スロープ



避難訓練における留意点

- 避難訓練は、毎年実施することが重要です。
- また、訓練結果は市町村に報告する必要があります。
- 訓練終了後には、参加者により訓練の振り返り（AAR※）を実施し、必要に応じて避難確保計画を見直すとともに、避難体制の改善につなげるようにしましょう。
- 訓練結果の振り返りを適切に実施するためには、あらかじめ訓練の目的と目標を決めておくことが重要です。



※AAR(After Action Review)とは、訓練で明らかになった失敗や課題を当事者同士で議論し、次への改善や教訓として組織の災害対応に活かす「ふりかえり」です。

タイムラインの作成と活用

- 情報収集や情報伝達、防災体制の確立、装備品等の準備、避難誘導の実施などの **防災行動を時系列で整理し、タイムラインを作成**しておきましょう。
- タイムラインは、日中や夜間といった避難する時間帯、施設の特長などに応じて、**複数のケースのものを作成**しておく必要があります。



理解度チェック（問題）

次の内容は「○」か「×」どちらでしょうか。
「×」の場合、正解を考えてください。

- ① 統括指揮者（施設管理者の場合もある）の役割は、防災体制の確立や職員等の召集、避難開始の判断、事前休業の判断等である。
- ② 避難訓練を振り返るためには、目的（確認すべき事項）と目標を決めておくことが重要であり、訓練終了後には、参加者による訓練の振り返りを実施することが大切である。
- ③ 避難確保計画は、一度作成すれば見直す必要はない。

理解度チェック（回答）

次の内容は「○」か「×」どちらでしょうか。
「×」の場合、正解を考えてください。

- ① 統括指揮者（施設管理者の場合もある）の役割は、防災体制の確立や職員等の召集、避難開始の判断、事前休業の判断等である。
- ② 避難訓練を振り返るためには、目的（確認すべき事項）と目標を決めておくことが重要であり、訓練終了後には、参加者による訓練の振り返りを実施することが大切である。
- ③ 避難確保計画は、一度作成すれば見直す必要はない。

間違っているのは、③です。
正解は以下のとおりです。

① 【正解○】

② 【正解○】

- ③ 訓練終了後には、参加者により訓練の振り返り（AAR）を実施し、必要に応じて避難確保計画を見直すとともに、避難体制の改善につなげるようにしましょう。